



5 予防接種



- <接種場所> あつまクリニック(要予約)
- <日 時> ◆未就学児(予防接種専用時間)・・・毎週水曜日14:00～15:00
◆小学生～19歳・・・毎週月・金曜日9:00～12:00/14:00～17:00、毎週水曜日9:00～12:00/15:00～17:00
- <持 ち 物> ①母子手帳、②QRコードシール、③予診票(必ず事前に記入してください)

定期予防接種 * 下記の期間で無料で接種することができます

種類	対象者(接種できる年齢)	接種開始年齢 (※開始年齢により、 接種回数異なります)	接種回数と間隔		備考
【不】 Hib(ヒブ)	生後2カ月 ～60カ月(5歳)未満	★標準的な接種 生後2カ月～7カ月未満	初回	3回(27日以上あけて)	※初回2・3回目は1歳まで(追加接種は可)
			追加	1回(初回終了後7カ月以上あけて)	
		生後7カ月～1歳未満	初回	2回(27日以上あけて)	※初回2回目は1歳まで(追加接種は可)
	追加	1回(初回終了後7カ月以上あけて)			
【不】 小児用 肺炎球菌	生後2カ月 ～60カ月(5歳)未満	★標準的な接種 生後2カ月～7カ月未満	初回	3回(27日以上あけて)	※初回2・3回目は2歳まで(追加接種は可) ※初回2回目が1歳を超えた場合は3回目の 接種は行わない(追加接種は可)
			追加	1回(初回終了後60日以上あけて、1歳以降に)	
		生後7カ月～1歳未満	初回	2回(27日以上あけて)	※初回2回目は2歳まで(追加接種は可)
			追加	1回(初回終了後60日以上あけて、1歳以降に)	
1歳～2歳未満	2回(60日以上あけて)				
2歳～5歳未満	1回				

種類	対象者(接種できる年齢)	標準的な接種年齢	接種回数と間隔		備考
【経口生】 ロタウイルス (1価ロタリックス)	生後6週 ～24週未満	1回目は生後2カ月 ～生後14週6日まで	2回(4週間以上あけて)		※R2.10.1～定期接種化
【不】 B型肝炎	生後2カ月 ～1歳未満	生後2カ月～9カ月未満	初回	2回(27日以上あけて)	
			追加	1回(1回目の接種から139日以上あけて)	
【不】 四種混合 ジフテリア・破傷風 百日ぜき・ポリオ	生後2カ月 ～90カ月(7歳6カ月)未満	生後2カ月～1歳未満	1期初回	3回(20～56日あけて)	※R5.4.1～接種開始年齢2か月に引き下げ
		1期初回(3回目)終了後 12～18カ月後	1期追加	1回(1期初回(3回目)終了後12～18カ月あけて)	
【注射生】 BCG	1歳未満	生後5カ月～8カ月未満	1回		
【注射生】 麻疹・風疹 (MR)	1期 1歳～2歳未満	1歳になったらできるだけ早 めに	1期	1回	
	2期 5歳以上7歳未満で 翌年度小学校に就学する児	小学校就学前の1年間 (年長)	2期	1回	
【注射生】 水痘 (みずぼうそう)	1歳～3歳未満 ※既に罹患した場合は対象外	1回目:1歳～1歳3カ月まで 2回目:1回目から6～12カ 月後	2回(6～12カ月(最低3カ月以上)あけて)		
【不】 日本脳炎	1期 生後6カ月 ～90カ月(7歳6カ月)未満	3歳～4歳未満	1期初回	2回(6～28日あけて)	
		4歳～5歳未満	1期追加	1回(1期初回終了後、約1年(最低6カ月)あけて)	
	2期 9歳～13歳未満	9歳～10歳未満	2期	1回	
【不】 二種混合 (四種混合2期) ジフテリア・破傷風	11歳～13歳未満	11歳～12歳未満 (小学6年生)	1回		
【不】 ヒトパピローマ ウイルス感染症 (9価シルガード)	小学6年生 ～高校1年生の女子	中学1年生	2回(6カ月(最低5カ月)以上あけて) ※1回目接種が15歳を超えた場合は3回接種(2カ月以上あけて 2回接種、その後1回目から6カ月以上あけて1回接種)		※R5.4.1～9価シルガード定期接種化

任意予防接種 * 助成対象(無料): 1歳～3歳未満で1回目の接種のみ

種類	対象者(接種できる年齢)	標準的な接種年齢	接種回数と間隔	備考
【注射生】 おたふくかぜ	1歳以上 ※既に罹患した場合は対象外	1歳以上 ※2回接種する場合の2回目は、 小学校就学前の1年間(日本小 児学会)	1回 ※日本小児学会では2回接種が推奨されています	※2回目接種の場合、1回目であつても年齢が助成対象外の場合は、全額自己負担となります。

* 本来、全額自己負担の予防接種ですが、厚真町独自助成により無料で接種することができます

説明: 【不】不活化ワクチン 【注射生】注射で接種する生ワクチン(※次に注射生ワクチンを接種する場合は間隔に注意)
【経口生】飲むタイプの生ワクチン

ワクチンの接種間隔について * 以下の2点を必ず確認しましょう

- ①次に別の種類のワクチンを打つ時・・・注射生ワクチンどうしは27日以上あける。それ以外は原則接種間隔をあげなくてよい(R2.10.1～適用)。
- ②次に同じ種類のワクチンを打つ時・・・上記の表のとおり間隔をあける

ワクチンで予防できる子どもの病気



1. ヒブ(インフルエンザ菌 b 型)感染症【ヒブワクチンで予防】

インフルエンザ菌 b 型という細菌（※インフルエンザウイルスとはまったく別のもの）による病気です。細菌性髄膜炎や喉頭蓋炎、肺炎などを起こします。5 歳までにかかることの多い病気です。髄膜炎は早期診断が難しいため重症化しやすく、重い後遺症を残したり、死亡する例もあります。

2. 肺炎球菌感染症【小児用肺炎球菌ワクチンで予防】

肺炎球菌は、子どもの多くが鼻の奥に保菌していて、ときに、細菌性髄膜炎や菌血症、肺炎、中耳炎などを引き起こします。髄膜炎は、ヒブによる髄膜炎より発症頻度は少ないですが、重症化します。

3. B型肝炎【B型肝炎ワクチンで予防】

主に血液を介して感染し、黄疸や全身のだるさ、食欲不振、吐き気、嘔吐などの症状が出る病気です。多くの場合 3 ヶ月以内に治りますが、乳幼児期に感染すると、ウイルスが排除されずキャリア（体内にウイルスを持っている）状態になる可能性が高く、慢性肝炎などを発症することがあります。

4. ロタウイルス感染症【ロタウイルスワクチン(経口)で予防】

ロタウイルスによって、下痢や嘔吐の胃腸炎症状が出る病気です。感染力が強く、胃腸炎の中でももっとも重症になりやすく、脱水症やくり返すけいれん、脳炎、重い腎障害などの合併症をおこすことがあります。

5. ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ【四種混合・二種混合ワクチンで予防】

【ジフテリア】

ジフテリア菌の感染で起こり、38 度以上の高熱、のどの痛み、犬の遠吠えのような咳が特徴的で重症になると、呼吸困難や神経麻痺、心筋炎を起こし、死亡することもあります。

【百日せき】

百日せき菌の感染で起こり、長く続くせき、笛を吹くような音をとまなう呼吸困難、チアノーゼなどの症状がみられます。肺炎や脳炎を合併することもあり、乳児では命を落とすこともあります。

【破傷風】

土の中にいる破傷風菌が傷口から体に侵入し、菌の毒素でけいれんを起こす病気です。顔の筋肉が硬直して引きつったような表情になり、口が開きにくくなるのが特徴です。重症になると強いけいれんで呼吸ができなくなることもあります。

【ポリオ】

小児マヒとも呼ばれます。かかっても無症状か、かぜに似た症状だけですむ場合がほとんどですが、まれに、熱が下がった後に片側の手足に弛緩性マヒを生じ、後遺症を残すことがあります。

6. 結核【BCGワクチンで予防】

結核菌の感染で起こり、日本では毎年約 2 万人の方が発症しています。高齢の方が多いですが、産まれてすぐであってもかかる可能性があり、抵抗力の弱い乳児がかかると、結核性髄膜炎や粟粒結核など重い結核になることがあります。

7. 麻しん(はしか)・風しん(三日ばしか)【麻しん風しん混合ワクチンで予防】

【麻しん(はしか)】

麻しんウイルスによって感染し、熱、鼻水、せきなどの症状ではじまり、特有の赤い発疹が顔から全身へ広がる病気です。子どもがかかると肺炎や脳炎を合併したり、死亡したりする例もあります。

【風しん(三日ばしか)】

風しんウイルスによって感染し、熱、赤い発疹、首のリンパ節のはれの 3 症状がみられます。発疹も熱も通常 3 日間で治りますが、重症になると脳炎や血小板減少性紫斑病になることもあります。

8. 水痘(水ぼうそう)【水痘ワクチンで予防】

水痘・带状疱疹ウイルスによって感染し、強いかゆみのある発疹が全身にできる病気です。発疹は水ぶくれ、かさぶたへと変化します。脳炎や肺炎、皮膚の細菌感染症などを合併することもあります。

9. 日本脳炎【日本脳炎ワクチンで予防】

感染したブタから蚊を介して感染し、急性脳炎を引き起こします。突然の高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどが起こり、一度かかると治療法がなく、死亡や重い後遺症を残す危険性があります。